

令和5年度病害虫発生予報第8号（12月予報）概要表

令和5年11月28日
埼玉県病害虫防除所

作物名・病害虫名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>1 水稻の冬期防除対策</u>	/	/
(1) スクミリンゴガイ		
<u>2 麦類の播種前防除対策</u>	/	/
(1) コムギなまぐさ黒穂病		
(2) 黒節病（オオムギ黒節病、コムギ黒節病）		
(3) 縞萎縮病		
(4) オオムギ斑葉病		
(5) シロトビムシ類		
<u>3 トマト（冬春栽培）</u>		
(1) 灰色かび病		並
(2) 黄化葉巻病		多
(3) コナジラミ類		多
<u>4 いちご（本ば）</u>		
(1) 灰色かび病		並
(2) うどんこ病		並
(3) アザミウマ類		並
(4) アブラムシ類		多
(5) ハダニ類		並
(6) コナジラミ類		並

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病害虫については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

令和 5 年度病虫害発生予報第 8 号（1 2 月予報）

令和 5 年 1 1 月 2 8 日
埼玉県病虫害防除所

1 水稻の冬期防除対策

病虫害名	防除上注意すべき事項
スクミ リンゴガイ (ジャンボ タニシ)	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌が乾燥して固い厳寒期に、トラクターの走行速度を遅く、ロータリーの回転速度を速くし、土壌を貝ごと細かく砕くようにして耕うんする。 ・貝は大部分が土中深さ 6cm 未満で越冬する。深い耕うんは貝を土中に埋め込み、越冬を助長する可能性があるため、耕うん深度を 6cm 程度と浅くする。 ・未発生ほ場への貝の持ち込みを防止するため、発生ほ場で使用したトラクターに付着した泥はしっかりと洗浄する。 ・暖冬により本種の越冬個体数は増加するため、冬期の気温が高いことが予測される場合は発生ほ場における耕うんの回数を増やす。

2 麦類の播種前防除対策

病虫害名	防除上注意すべき事項
コムギ なまぐさ 黒穂病	<ul style="list-style-type: none"> ・種子伝染するため、種子更新を行うとともに種子消毒を実施する。 ・土壌伝染する場合もあるため、前作で発生したほ場では作付けを控える。 ・オオムギとコムギでは、なまぐさ黒穂病の病原菌が異なるため、被害が多発しているほ場では麦種を転換する。
黒節病	<ul style="list-style-type: none"> ・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に、適期防除を実施する。
縞萎縮病	<ul style="list-style-type: none"> ・播種後の土壌水分が高く、地温が高いと感染が増大するため、排水対策を実施する。 ・オオムギとコムギでは、縞萎縮病の病原ウイルスが異なるため、被害が多発しているほ場では麦種を転換する。
オオムギ 斑葉病	<ul style="list-style-type: none"> ・発生後に使用できる薬剤はないため、播種前に種子消毒を実施する。 ・遅まきは発生を助長するため、昨年発生ほ場では早めの播種を心がける。
シロトビムシ 類	<ul style="list-style-type: none"> ・発生後に使用できる薬剤はないため、常発地では、播種前に種子消毒を実施する。 ・遅まきは発生を助長するため、昨年発生ほ場では早めの播種を心がける。

参照 1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多*****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+) は助長または促進、(-) は抑制、(±) は傾向維持を意味します。

3 トマト（冬春栽培）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
灰色かび病	並	○11月中旬の発生量：無 □気象予報：気温はほぼ平年並、降水量は少ない（±）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に防除対策を実施する。
黄化葉巻病	多	○11月中旬の発生量：多 □11月中旬のコナジラミ類の発生量：多（+）	
コナジラミ類	多	○11月中旬の発生量：多 □気象予報：気温はほぼ平年並（±）	・本虫は黄化葉巻病を伝搬するため、防除対策を実施する。
【共通注意事項】 <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多*****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

4 いちご（本ぼ）

病害虫名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
灰色かび病	並	○11月中旬の発生量：無 □気象予報：気温はほぼ平年並、降水量は少ない（±）	・多湿により発生が助長されるため、温湿度管理に注意する。
うどんこ病	並	○11月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温はほぼ平年並、降水量は少ない（±）	
アザミウマ類	並	○11月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温はほぼ平年並（±）	・ミツバチ等に影響があると考えられる薬剤は、使用時期に十分注意する。
アブラムシ類	多	○11月中旬の発生量：多 □気象予報：気温はほぼ平年並（±）	
ハダニ類	並	○11月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温はほぼ平年並（±）	
コナジラミ類	並	○11月中旬の発生量：並 □気象予報：気温はほぼ平年並（±）	
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 ・生物農薬（天敵）を使用している場合は、悪影響がないよう薬剤の選択に注意する。			

＜農薬使用上の注意事項＞

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。
特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 5 農薬の最新情報は、農薬登録情報提供システム（農林水産省）から検索できます。
農薬登録情報提供システム（農林水産省） <https://pesticide.maff.go.jp/>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・並*：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・多***：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

(参考) 気象概要 1 か月予報 (令和5年11月23日発表)

出典: 気象庁ホームページ (https://www.jma.go.jp/longfcst/103_00.html)

<予報のポイント>

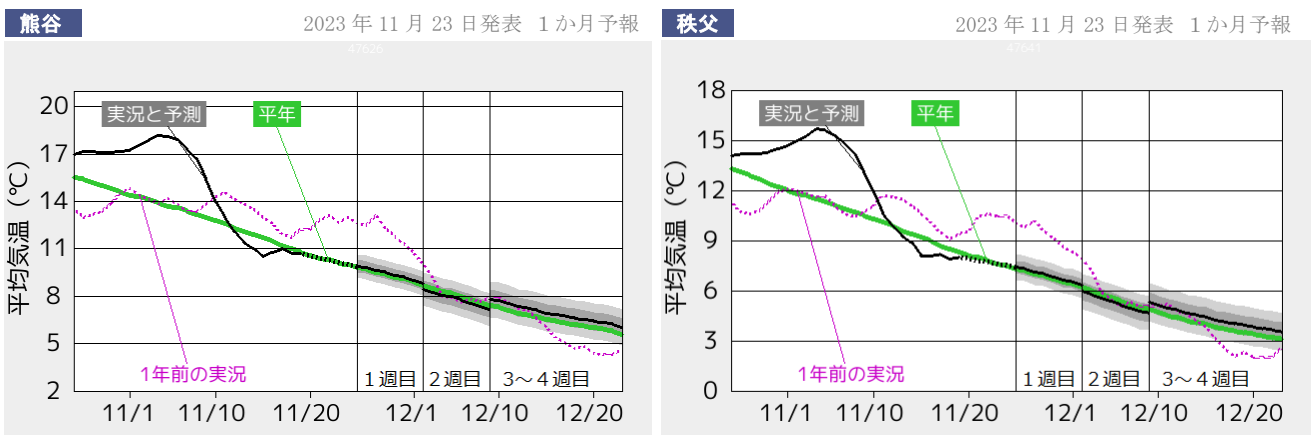
- ・期間の前半は寒気の影響を受けやすい時期がありますが、後半は寒気の影響を受けにくいいため、向こう1か月の気温はほぼ平年並でしょう。
- ・期間の前半を中心に高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の降水量は少なく、日照時間は多い見込みです。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

【気温】 関東甲信地方	30	40	30
【降水量】 関東甲信地方	50	30	20
【日照時間】 関東甲信地方	20	30	50

凡例: ■ 低い (少ない) ■ 平年並 ■ 高い (多い)

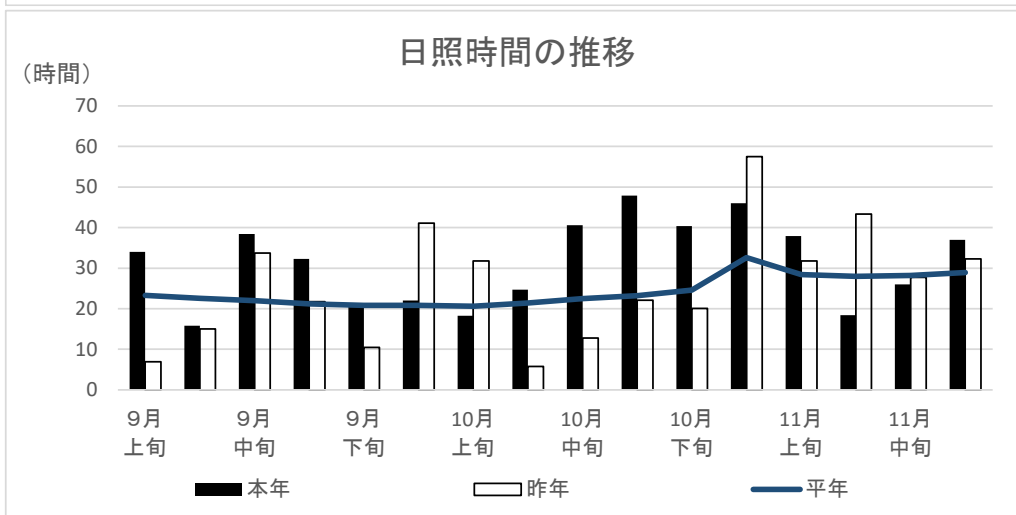
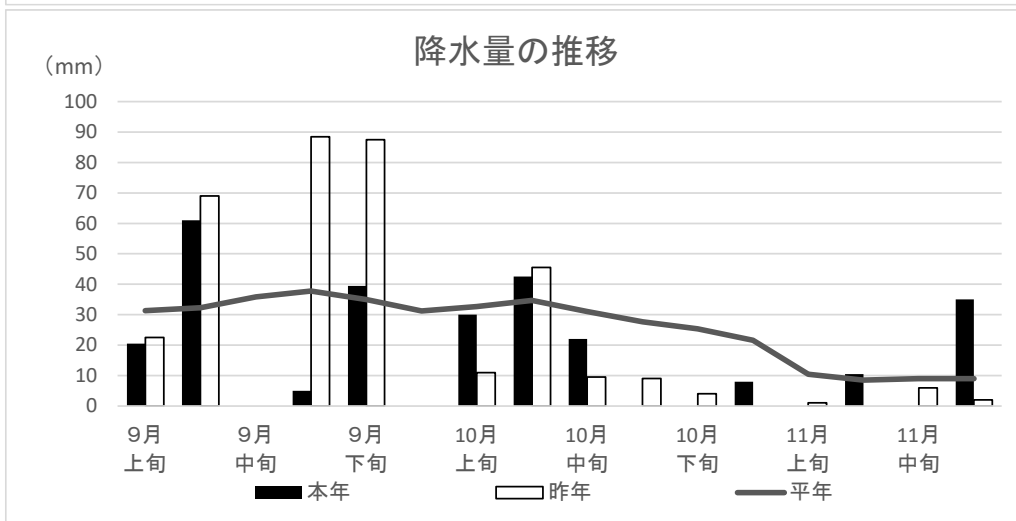
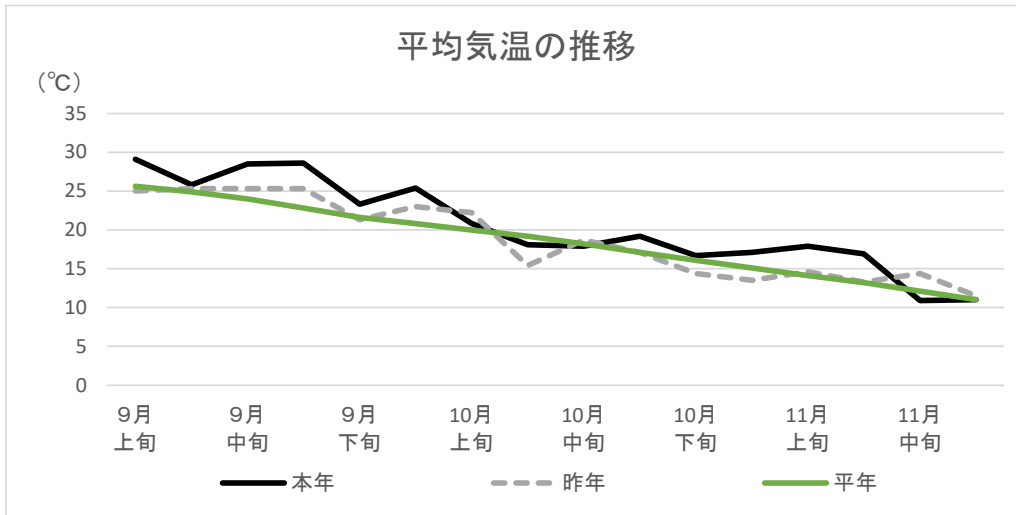
(参考資料1) 1 か月予報による気温の見通し (地点ごと)



図の見方

- **今年の実況(黒色の太い実線)** —————
7日間の平均気温(プロットする日からみて3日前から3日後までの7日間の平均気温)を示しています。
- **予想(太い実線と網がけ)** —————
予想の気温は、週別の平均的な気温の見込みを太線で表しています。また、信頼の程度が40%の幅を濃い網掛けで、70%の幅を薄い網掛けで示しています。>>> [詳細](#)
- **平年値(緑色の太い実線)** —————
平年値(1981~2010年の30年間の平均)を緑色の太い実線で示しています。
- **昨年の実況(紫色の点線)** - - - - -
昨年の実況値(7日間平均気温)を紫の点線で示しています。

(参考資料2) 過去の平均気温、降水量、日照時間 (熊谷)



問い合わせ先
 埼玉県病虫害防除所
 〒360-0102 埼玉県熊谷市須賀広 784
 電話：048-539-0661 FAX：048-539-0663
 E-mail：k3603114@pref.saitama.lg.jp
<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/>